



ひろせっ子だより

令和6年度 学校だより 第7号

令和6年9月20日発行

R6年度 豊岡南小学校 全国学力学習状況調査報告

4月に6年生を対象に行われた全国学力学習状況調査の結果を分析しましたので報告させていただきます。また結果とともに、今後学校として力を入れて指導していきたい点をまとめましたのでご覧ください。

(1) 令和6年度 6年生の得点集計結果

	静岡県平均正答率	全国平均正答率	本校の平均正答率について
国語	67%	67,7%	静岡県の平均正答率及び全国の平均正答率よりも高い。
算数	62%	63,4%	静岡県の平均正答率及び全国の平均正答率よりも高い。

(2) 結果を受けて ~成果と課題~

① 学習に関する成果

- 国語、算数ともに全体の正答率が高く、日頃の授業や家庭学習における基礎、基本の積み上げが効果として確実に表れていると言えます。
- 国語、算数ともに選択式の問題の正答率が高く、両教科とも正答率80%を超えました。
- 国語については、物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く問題やメモの書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する問題、オンラインで交流する場面において話し手が話し方を変えた理由として適切なものを選択する問題などの正答率が高く(A 話すこと・聞くこと)(B 書くこと)(C 読むこと)の3領域ともバランスよくできていました。静岡県全体としては「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることが課題として挙げられていますが、本校では正答率が90%を超えるほどよくできていました。
- 算数については、比較的基礎的な問題の正答率が高く、作成途中の直方体の見取り図として正しいものを選択する問題やはじめに持っていた折り紙の枚数を□としたときの、問題場面を表す式を選択する問題等の正答率が高かったです。

② 学習に関する課題

- 国語については、文章中の下線部アの「きょうぎ」を漢字を使って「競技」に書き直す問題の正答率が低かったです。これは本校だけでなく県、全国を見ても低い正答率となっています。タブレット端末の導入により、文章を書く習慣が薄れているのが要因の一つではないかと考えられます。タブレットを使う場面と取って使わないで書く場面を精選していく必要があります。特に国語科におけるタブレット端末の使用は今後の課題にあげることがあると思われます。
- 算数については、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題があります。直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題や家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く問題の正答率が低かったです。算数に関しては選択式と記述式の問題の正答率の差が大きいのも特徴の一つです。図形を構成する要素を見だし、活用できるような力、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、見出したことを表現できる力が求められます。

③ 児童質問紙から見えてきた成果

- 2科目に対して「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と88%の子供が答えており本校の児童の実態として与えられた課題に対して時間を有効に使い、真剣に取り組もうとする真面目さがうかが

えました。

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問に対し、肯定的に答えている児童の割合が県平均、全国平均と比較して高い数値でした。担任との信頼関係の高さがうかがえました。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という設問に対し「よくある」「ときどきある」と答えた子供の割合が高かったです。このことから普段の生活が充実していて幸福感を感じている子供が多いことがうかがえました。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対し、100%の子供が肯定的に回答し、「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」という設問に対しては90%の子供が肯定的な回答をしました。いじめに対する意識が高く善悪の判断ができ、社会や人の役に立ちたいと感じている子供が多いことが分かりました。

④児童質問紙から見えてきた課題

- 「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」という設問に対して否定的な回答が多かったです。より良くしようと工夫したり、習得したことを他の場面で活用しようとする主体性に課題があることが分かりました。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という設問に対し、約半数の子供が否定的に答えました。困りごとや不安を周りに相談できない子供が多い傾向にあることから、子供一人一人の見取りをより丁寧に行っていく必要があります。
- 「友達関係に満足していますか」という設問に対する否定的な意見が県、全国平均と比較しても多く、友人関係に問題を抱えている子が気になります。よりよい子供同士の人間関係構築のための手立てを講じていく必要があります。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対して「どちらかと言えば当てはまらない」と答えた子の割合が高かったです。子供の自信を日々の教育活動の中で育てていくとともに、友達同士のつながりを深めていく中で現在の小学校生活に対する充実感や満足感を高めていく必要があります。その上でキャリア教育を充実させ、自分の将来に対する期待や希望をもてるようにしていきます。

(3)豊岡南小の授業では、こんなところを意識していきます。



- 書くことを今まで以上に大切にします。

書くことにより、子供の思考が整理されたり、活性化されたりします。何のために書くのか、何のためにタブレットで打つのかその目的を明確にすることが大切です。書くことの良さ、タブレットを使うことの良さを見極め子供にとってその時間の最適な方法を検討していきます。

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

子供がその授業で身に付けた見方や考え方が大変便利で有効だと実感すれば、その後もその見方や考え方をを使うでしょう。そのような見方や考え方を日々の授業でいかに身に付けさせるか、教え込むのではなくその良さに自然に気付くことが重要です。

2学期は我々の授業改善のために子供同士が授業を見合う機会を設けようと考えています。我々教師だけでなく子供も授業に対する意識を高め、こんな授業にしたいという思いを育てていきます。

- 子供に任せる時間の確保

子供を信頼し、ある程度子供に任せる時間を授業の中で設定していきます。単元を通して子供にその学びを計画させ、自分たちで切り開いていくことができる課題を設定していきます。その経験の積み重ねにより子供の主体性は育っていくと考えます。

- 学びの実感のある授業に

その時間で何を学び、どのような力が付いたのかを子供一人一人が実感できる授業を展開していきます。そのためにその時間のめあてを明確に子供たちに示し、そのめあてに直結するまめに向けて授業を展開していきます。最後の振り返りの時間を確実にとり、この時間にはこんなことが分かった、こんなところが成長したと自己をふり返る時間にします。我々が1時間、1時間をそのように大切にしていくことで子供たちに学びの実感を積み重ねていくことができると考えます。

